



Soy Japonesa

05/31/2025

渡邊結友

5月のひとこと

4月末にテストが終わって他の日墨生がセメスター前最後の中休みに入ったとき、私はメキシコ留学の目的であった「メキシコの複数の日本語教育機関で日本語を教える」ことを達成するため、日墨学院で3週間ほどのインターン（教育実習）が始まりました。

5月の目標

1. 日本語教育機関でも特殊な体制である日墨学院でしか学べないことを吸収し、これからに活かす。
2. 4時半起き、21時就寝の生活リズムをなるべく崩さない。
3. 土日はしっかり休む

ふりかえり

1. 相手が中学生相手ということもあり、今まで経験してきた対象や学校の体制が全く異なるゆえに、今までの日本語を教えた経験が通用しない部分もたくさんありました。日墨学院については、次ページで詳しく紹介します。
2. 日墨学院が今住んでいる家から1時間ほどかかるということもあり、人生で一番早い時間に起きなくてはならず、かなり大変でした。土日明けは4時半に起きられるかどうか、やはり怖いです…。
3. 平日しっかり働いた分、しっかり休息をとれたのではないかと思います。日墨学院以外の事（中央学園での授業の代講資料作成や広島のリポートなど）に土日を費やさなければならない週もありましたが、休息優先で休むことができたと思います。

最近の心境

最近はかなり自分の将来像が見えてきました。このプログラムに受かる前、少しだけ就活をしていましたが、当時は周りの様子に焦ってとりあえず就活をするという感じで、「なぜ就活をするのか・したいのか」という明確な動機付けがあまりありませんでした。1年休学して、やってみたかったことにチャレンジしたり、文化や気候からまるで違うメキシコで生活することで将来像を具体的に考えられるようになりました。私にとって、この1年はギャップイヤーです。周りに流されることなく考える時間は、人によりますが長い時間が必要です。しかし、挑戦したからこそ、見える可能性や新たな発見があると思います。

5月のハプニング

今月はそんなにハプニングが起きなかったので、メキシコらしい話をひとつ。某コーヒーチェーンの前につながれた犬が逃げたしまい、あわやというところ、通りかかったおじさんがリードをつかみ、飼い主を待っていました。ここまでは日本でもありますが、その場にいた関係ない人たちが7人くらい立ち止まり、犬がちゃんと飼い主のもとに渡るのを見守っていました。そして飼い主が店から出てきたら、見知らぬ人と目を合わせてにっこりし、それぞれまた歩き始めました。そんなところが愛犬家が多いメキシコらしいなと思います。

ラーメンと餃子！

メキシコシティには日本食を取り扱っている店や日本食店が多く、店によりませんがそれほど高くありません。インターンでラスト授業の日に食べました ^^ おいしかったなあ～



第2のインターン先、日墨学院（Liceo México Japón）

今回インターンをさせていただいた日墨学院は、いわゆる「日本語学校」とはかなり異なるので、まずはそれを詳しくお伝えできればと思います。日墨学院は、1977年に設立された学校で、日本の教育課程で勉強する日本コースと、メキシコの教育課程で勉強するメキシココースの2つがあります。日本コースはいわゆる日本人学校で、それと普通のメキシコの私立幼小中等高等学校が合併している形になります。レオン日本人学校では片親がメキシコ人という生徒は稀で大半が駐在員の子どもでしたが、この日墨学院日本コースには、日系人の親をもつ子どもも多く、様々な背景をもつ子どもたちが日本コースに在籍しています。もちろんメキシココースも同様で、日本語の名前をもつ日系人の子どもも多くいます。そして、そんな特色から、メキシココースには第2外国語として日本語の授業があり、私は今回メキシココースの日本語科で中学生を主な対象に教育実習を行いました。

インターンしてみて感じたこと

日本とメキシコで感じた生徒の違い

もちろん思春期で難しい時期というのは日本もメキシコの生徒も一緒なのですが、さすがメキシコの子どもだな…！と思った出来事を紹介します。ある日本語の授業を見学をしていたとき、授業中に歌ったり叫んだりする生徒がいました。それを見かねた先生が、「○○（生徒の名前）さん、前に立って先生しますか？」と質問しました。この質問、日本で育った子どもならばおそらく委縮して大人しくなるでしょう。しかし、その生徒はPPTの前に立ち、元気よく“¿Qué es eso?”と先生役を شدしたのです。基本的に（そうでない場合もありますが）、メキシコの活気あるエネルギーを受けて育ったせいか、メキシコの子ども達は自己主張が強く、目立ちたがりな子どもが多いように感じます。

今までの経験が通用しない、vs 中学生

これは実際に働いてみて、授業をしてみて痛感したことです。中学生の授業は、まず日本語の授業の前に人としての授業なんです。一応私も教育学部の学生なので一般的な知識は教員免許を取得する中で学ぶのですが、実際にみて・やってみて、なんて難しいのだらうと思いました。今までも子どもに日本語の授業をしたことはありましたが、10人以上、それも本当に元気なメキシコの子ども達。やってみると本当に大変で、毎授業中学生たちに試されている気分でした。先生方にクラスコントロールのコツを聞くと、「生徒は最初の1週間でこの先生ならどこまでやっても良いかを見極めるから、最初の1週間は厳しくすること」だそう。日本で児童自立支援施設でアルバイトをしていた時にも同じことを言われたので驚きました。ただ、声の届きにくい教室の中で実際にそんな簡単にできるかと言われたら、そうではなく…。悔しい思いもたくさんしました。私の授業は良いとはあまり言えませんでした。この経験は、きっと今後日本語教育だけでなく、様々なところで活かすことができるでしょう。

海外で働く、ということ

今回、本格的に週5日で働いてみて、ぼんやりですが海外で働くイメージがつかえました。そしてそこで考えたのは、やはり「留学」と「海外で働くこと」は違うということ。今まで憧れでしかなかった海外生活や海外勤務が、現実味を帯びて私のもとへ近づいてきたように感じました。

5月のきろく



日系子どもの日にて



インターン先、毎週木曜
にケーキが買えました



インターン先の帰り道
いつも使うカミオン



夜ごはんのマグロポキ丼



フラミンゴ、カンクンにて



セノーテ：ドス・オホス



チチェンイツァ！
大きい～



野生のイグアナ
野良猫並みにたくさんいます



メリダにて
Sopa de limón と cochinita